

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11857

研究課題名(和文) 周術期口腔機能管理におけるセルフチェックシートを用いたスクリーニング法の検討

研究課題名(英文) Examination of a screening method using self-check sheet for perioperative oral management

研究代表者

吉富 愛子 (Yoshitomi, Aiko)

岡山大学・大学病院・医員

研究者番号：50343372

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：年々増加する周術期患者への医科歯科連携を支援する目的で、セルフチェックシートを用いた効率的な周術期口腔機能管理の方法を検討した。簡便な問診により周術期口腔機能管理が必要な患者を効率的に発見出来るかどうか患者の回答と実際に歯科医師が診察し判断した内容を比較して本質問の感度・特異度を調べた。簡便な問診は、感度が低く、特異度が高かった。セルフチェックシートの効果を上げるためにより具体的な質問内容の検討が必要であるとともに、周術期歯科では患者自身の自覚症状によらず歯科医師の客観的な判断が必要であるため、できる限り歯科医師による術前の口腔内の評価が重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

全身麻酔下での手術件数は年々増加しており、限られた歯科的リソースの中で、周術期の歯科介入の必要性が高い患者をピックアップするために簡便なセルフチェックシートにより歯科介入の必要性の判定が可能になれば、歯科専門職以外の医療従事者も歯科介入の必要性を判定することが可能になる。歯科併設のない病院では、周術期口腔機能管理を導入しやすくなり、また、歯科併設病院ではより効率的な口腔機能管理が可能になる。

研究成果の概要(英文)：To promote multi-disciplinary team approach for perioperative oral management, we considered an efficient method using the simple self-check sheet, consisted a sentence "Do you have concerns with your mouth when undergoing surgery?", which developed to assess requirements of professional dental interventions. To evaluate of the availability of the developed simple self-check sheet, the sensitivity and specificity were investigated. The results showed the simple self-check sheet had low sensitivity but high specificity. Therefore, patients, with some oral concerns by simple self-check sheet, should be examined and managed by dental professionals, at least. And routine pre-examination under general anesthesia by dental professionals is desirable for surgical safety, because of low sensitivity.

研究分野：周術期口腔機能管理

キーワード：周術期口腔機能管理 スクリーニング

様式 C - 19 , F - 19 - 1 , Z - 19 ( 共通 )

### 1 . 研究開始当初の背景

周術期において、術後合併症予防のための術前の口腔内感染の除去、経口栄養摂取可能な咀嚼機能の維持向上、気管挿管時の歯牙や修復物の破折や脱落などの偶発症の防止などのために歯科介入が非常に重要である。質の高い医療を実現するためには、周術期の口腔機能管理は必要不可欠だが、全身麻酔下での手術件数は年々増加しており、当院のような歯科併設病院でも歯科が医科の全患者に対応することは困難である。また、歯科併設のない病院では、どのような場合に口腔機能管理を行うか判断が難しく、周術期口腔機能管理を積極的に実施出来ない状況であると考えられる。限られた歯科のリソースの中で、年々増加する全身麻酔下手術患者にいかに対応するかが大きな課題であり、そのためにも、効率的な医科歯科連携体制の確立が求められている。周術期の歯科介入の必要性が高い患者をピックアップするための一次スクリーニングが有効と考える。患者自身によるセルフチェックシートをもとに、歯科介入の必要性の判断が可能であれば、歯科専門職以外の医療従事者も歯科介入の必要性を判定することが可能になる。歯科併設のない病院では、周術期口腔機能管理を導入しやすくなり、また、歯科併設病院ではより効率的な口腔機能管理が可能になると考える。

### 2 . 研究の目的

周術期患者への医科歯科連携を支援する目的で、セルフチェックシートを用いた効率的な周術期口腔機能管理の方法を検討するために、

- (1) 歯科介入の必要性を評価するために、チェック項目と判定基準を検討し、セルフチェックシートを作成する。
- (2) セルフチェックシートによる判定と実際の診断ならびに歯科介入の必要性との関連を比較分析し、セルフチェックシートの有用性を検討する。

### 3 . 研究の方法

当院にて2018年4～11月に全身麻酔下で手術を予定し、周術期口腔機能管理目的に歯科紹介されたがん手術患者361名(男性192名、女性169名)に対し、「手術を受けるにあたって、お口で気になることはありますか?」と質問した際の回答と、実際に歯科医師が診察し周術期の口腔管理を必要と判断した内容を比較して本質問の感度・特異度を調べた。

歯科医師の評価項目は、手術前の歯性感染巣の精査と除去の必要性、および歯髄炎など歯に起因する急性痛などにより周術期に障害が生じないか、経口栄養摂取が問題なくできる咬合があるか、気管挿管時の歯の損傷の可能性がないか、の3項目とした。

### 4 . 研究成果

- (1) 患者への「手術を受けるにあたって、お口で気になることはありますか?」という質問への回答結果と歯科医師の診査結果、ならびに当該質問の感度および特異度を検討した。

		治療の必要性		計
		あり	なし	
患者の回答	あり	50 (14%)	23 (6%)	73 (20%)
	なし	117 (32%)	171 (47%)	288 (80%)
計		167 (46%)	194 (54%)	361 (100%)

361人中73人の患者が「気になることがある」と回答した。

その73人のうち、50人が歯科医師の診査で口腔管理が必要と判断され、残りの23人は問題ないと判断された。

「気になることがない」と回答した288人の患者のうち、117人は診査で口腔管理が必要と判断され、残りの171人は問題ないと判断された。

- (2) 患者因子(性別・年齢層・がんの部位)別、周術期を念頭においた診査項目別について、「お口で気になることはありますか?」という質問の感度および特異度を検討し、ある一定の傾向があることが示唆された。

簡便な内容により周術期口腔機能管理の必要性を判定するための質問として、「手術を受けるにあたって、お口で気になることはありますか？」という質問は特異度が高いので、少なくともこの質問に「気になることがある」と答えた患者に対しては術前に歯科医師による診査および口腔管理を受けさせるべきであると考えられる。一方、「手術を受けるにあたって、お口で気になることはありますか？」の質問の感度は低く、さらに具体的な問診あるいは質問でよりこの問題は解決されるかもしれない。しかし、自由回答で記入を依頼した口腔内の懸念事項については、本人による申告内容と歯科医師の確認した所見が、必ずしも一致しない例が多く見られた。セルフチェックシートのチェック内容の充実は近未来的な対応として有効な可能性があるが、患者の質問の回答の如何を問わず、周術期に際して歯科医師は半数近くの患者について何らかの治療が望ましいと判断しており、周術期口腔機能管理が必要な患者を見逃さずに質の高い医療を提供するためには、可能であれば手術の前に歯科医師が全患者の診査を行うべきと思われる。そのためにも、全身的な背景および手術内容等について密な連携を取り得る病院歯科にこの役割を果たすことが望まれると思われる。このことは最近の厚生労働省が発表している下記の方針とも一致すると言える。

## 2.2 地域包括ケアシステムにおける歯科医療機関等の役割

### (3) 病院

病院における歯科医師の役割や業務を明確にし、歯科医療の向上に資する取組を推進する。なお、病院の歯科医師は、歯科疾患に対する外科手術等の歯科診療のみならず、医師等の他職種と連携を図りながら、入院患者に対する口腔機能管理等も行うことが重要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Aiko Yoshitomi, Misato Muro, Yoshihiko Soga
2. 発表標題 Sensitivity and specificity of the question “Do you have concerns with your mouth when undergoing surgery?” for perioperative patients with cancer
3. 学会等名 MASCC/ISOO 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉富 愛子, 室 美里, 曾我 賢彦
2. 発表標題 「手術を受けるにあたって、お口で気になることはありますか？」の質問の感度・特異度
3. 学会等名 日本がん口腔支持療法学会第5回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山中 玲子 (Yamanaka Reiko) (00379760)	岡山大学・大学病院・助教  (15301)	
研究分担者	森谷 有三英 (Moritani Yumie) (10453755)	岡山大学・大学病院・医員  (15301)	